

素材の知識

デニム

デニムとはタテ糸をインディゴによって染色し、ヨコ糸を染色加工をしていない糸で綾織にしたもので表と裏の色の仕上がりが変わります。平織より密度が高く丈夫な生地になります。織目も右綾、左綾、ブローケンツイルなどがあり、それぞれの特徴があります。

ブルデニム

デニムはタテ糸をインディゴによって染色し、ヨコ糸を染色加工をしていない糸で綾織りにしたものに対して、ブルデニムはタテもヨコも生成り(ナチュラル)のまま織られたデニム。ナチュラルデニムとも呼ばれる物とそれを生地にしてからそのまま、もしくは生地染めた物を称します。

チノクロス

タテ糸とヨコ糸も同色の糸で綾織にしたもので、デニムより細い糸を使うため、なだらかで独特の光沢を持ち、同系の色を使うことで均一な色合いになります。デニムとの違いは、糸の色と太さとなります。

オンス (oz)

デニムの重さを示すために使用する単位。1オンス=28.35g。
1平方ヤード(約90cm四方)で340gとすると $340 \div 28.35 = 12$ オンスとなります。一般的には重くなるほど厚地になり、軽くなるほど薄地となります。それらは糸の太さと織り込みの密度により左右されます。

ワープウエフト

WARP(ワープ)はタテ糸、WEFT(ウエフト)はヨコ糸を指す。

ストレッチ デニム

伸縮性のあるデニムは一般的にポリウレタンの弾性を含みます。例えばスリムフィットなどに使用される約15%の伸縮性を得るには約3%を必要とします。

ハイパーフレックス

ライクラにデニム糸を巻き付けて織り上げることで、最大120%の伸縮性と伸縮による回復率は100%に近いカバーリーを持つリプレイ独自のテクノロジー。サステナブルな製法も取り入れ、その技術は常に進化します。

ライクラ

ライクラは人工エラスチン繊維で、常に他の繊維とブレンドされ独特のストレッチと形状保持の特性を持ちます。快適性、フィット感、自由な動きの持続性を向上させます。

カラー別の糸の配色

インディゴデニム=WARPインディゴ WEFTホワイト

ブラックデニム=WARPブラック WEFTブラック

ホワイトウエフトデニム=WARPブラック WEFTホワイト

REPLAY DENIM FABRIC

リジット: 100% コットン 伸縮性 0 %
コンフォート: 最大 20%の伸縮性
ストレッチ: 最大 30%の伸縮性
パワーストレッチ: 最大 50%の伸縮性
(スキニーデニムで動きを可能にする伸縮性)
ハイパーフレックス: 最大 120%の伸縮性

テクノロジー 1



ストーンウォッシュ

石で色を侵食してコントラストを作るプロセス。
ファブリックの最終的な色合いは洗濯時間によって決まります。
デニムと石の回転時間が長くなるほど色は薄くなります。



レジンウォッシュ

織物の表面に樹脂コーティングすることでインディゴをブロックし、クリアな光沢のある見た目を保ちながら布地を覆います。
削り取られたときに、より鮮明なコントラストを放ちます。



スクラッピング

機械式のやすりなどで衣服に壊れたような見た目を作る加工技術。
それは全体的に施したり、ポケット部分のみであったり、どの部分へも適用可能です。エメリー紙を用いてデザインに合わせ衣類を擦ります。



3Dエフェクト

デニムをマネキンに穿かせ立体の状態にしてから、職人の手作業で一つ一つシワやヒゲを作成し、レジンなどで折り目を固定する加工技術。
実際に穿いてできたような自然で高品質な仕上がりになります。



ピグメントスポット

不均一な色の変化を与えるためにピンポイントで色を付ける加工。



ウィスカー

股部分や膝の後ろに穿きこんだようなシワを発生させる加工技術。
ヴィンテージの風合いに仕上がります。

テクノロジー 2

ローデニム/リジットデニム

糊のついたままの洗い加工のされていないデニムのこと。生デニムとも呼ばれます。最初は濃いインディゴですが着用を重ねるごとに徐々に色落ちやシワ、擦り傷が発生し、唯一無二の1本に変化する過程を楽しめます。

ユーズドウォッシュ

使用感、穿きこんでいるように見えるようにするため洗浄処理を行うこと。

ダイ（イング）

染色の総称。
20世紀の初めまで繊維の染色は植物、野菜、動物の色素を使用しておりましたが現在では科学的な染料が主体となっております。

ヤーンダイ

ヤーン（糸）の状態で染色し織られた生地のこと。デニムはヤーンダイです。

ガーメントダイ

後染めのこと。
衣服になった状態で染められることで製品染めとも呼ばれます。
ポケットのライニングやラベルが生地と同じ色に見える時はおそらくガーメントダイで染色された製品です。

フェーディング

軽石、漂白剤、または酵素洗浄のいずれかで色を落とした加工法。
裾と縫い目に特徴が表れます。

ブリーチ

デニムの色を落とすブリーチ加工と呼ばれるものになります。
次亜塩素ナトリウム溶液を使用しております。

ブルーブルーデニム

重ね染めのことで、ブルー・オン・ブルーとも呼ばれます。
ブルーデニムに更にブルーで染色することで深みのあるブルーとなります。

ブルーブラックデニム

重ね染めのことで、ブラック・オン・ブルーとも呼ばれます。
ブルーデニムに更にブラックで染色することで黒みを帯びた深みのあるブルーとなります。

ブラックブラックデニム

タテ糸がブルーではなくブラックのデニム生地。通常ヨコ糸はホワイトを使用するためグレーっぽく仕上がりますが、真っ黒にするためヨコ糸もブラックを使用したデニムです。

エンザイムウォッシュ

有機酵素（タンパク質）を使用して生地の表面を分解していく加工でバイオウォッシュとも呼ばれ、環境にやさしく、生地の痛みを抑え、柔らかく仕上がるのが特徴です。そのヴィンテージ感はストーンウォッシュを施したような仕上がりになります。
また、より効果的な仕上がりのため、バイオストーンウォッシュという加工もあります。

アイスブラスト

水をマイナス80℃で急速冷凍して精製した氷を高圧でデニムに打ち付けることで生地や染料を削り、ヒゲやユーズド感を再現しています。
この技術はデニムの製造過程における水の使用量を約80%削減できるだけでなく、職人の健康被害への懸念からリプレイでは行わなくなっているサンドブラスト加工の代替技術として優れています。

ジーンズの名称 1

コインポケット

右のフロントポケットの内側に位置し、元は懐中時計を入れるためのポケット。ウォッチポケットやマッパポケットと呼ばれる。ジーンズの第5のポケット。

リベット

補強に使用される金属鋳で、カラーやラインストーンで装飾アクセサリーとしても使用される。

ブレイカーズ

生地の上に引っかき傷や、擦り傷を作り、穿き古したような見た目にするためのプロセス。軽石で加工されることが多い。

セルヴィッチ

ジーンズの裾を折り返した時に、生地の上の部分に「耳」とはつれ止めがなされているもので赤耳とも呼ばれます。旧式の織機で職人の手作業により作られるので、織り方や糸の太さにより凹凸感が生まれ、機械には出せない風合いと経年変化が楽しめます。

ボタン

メタル製でブランドロゴやシンボル、イニシャルが施されています。

バータック

全てのリブレイジーンズに縫いつけられたトレードマーク。元来はファスナーやポケット、ベルトループ周辺のストレスがかかる部分の補強のためのもので縫製リベットと呼ばれました。日本のカンヌキに相当します。

リブレイトライアングル

リブレイのシンボルであり、歴史を語るオリジン。さまざまなデザインがありますがトライアングルは永遠です。

フィニッシング

ジーンズにユニークな外観をあたえるために施された、あらゆる種類のプロセスと技術を示すことの総称。

コットン

コットンは生活の上で用途が広く、欠かせない織物です。耐摩耗性があり、染料と親和性が良く、濡れると強度が10%向上します。



ジーンズの名称 2

ベルトループ

ベルトが滑らずに着用できるようにつけたループ。本数を変えたり装飾を施したりなどデザイン的な部分も兼ね備えます。

シーガル

シーガル=カモメ
リプレイを象徴するステッチ。
カモメが翼を広げて青い空を
飛んでいる
そんなイメージでしょうか。

ジーンズ

本来、デニムは生地、ジーンズは製品を意味します。アメリカ人がジェノバの船乗りが穿いていたズボンをジェンズ、ジェノワーズと呼んだのが始まりです。

シルエット

スキニー、スリム、テーパードなど衣服の形状を表す。

バックレーベル

ブランドの象徴的な要素でレザーを筆頭に様々な素材が使用されます。
レーベルのデザインはジーンズそのもののデザインが込められています。

バックヨーク

バックヨークでヒップの立体感にフィットさせることで穿き心地、立ち座りの負担の軽減、そして小尻効果を得ることが可能です。

R ロゴ

リプレイのシンボルであり、歴史を語るオリジン。赤の刺しゅうやメタルでデザインされます。

インディゴ

古くはエジプト王長期より用いられたインディゴはデニムに使用されるもっとも一般的な染料でした。
その特徴は染色と発色の良さ、そして繊維に強く定着しない性質のため、着古したり洗濯を繰り返すうちに徐々に染料が落ちてジーンズの色が常に不規則でユニークに見えるようになります。

